![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　平成２８年度２月号（2017.2.10）

　園長　平澤　正則

いわしを焼きながら思ったこと

　2月3日（金）は節分，園庭でいわしを焼こうと思ったのは，去年試しに焼いたその場で子どもたちに食べさせたら，多くの子がおいしいと言い，なんと全員が口にしたというからです。多分，家庭でだったらあそこまで多数の子は食べなかっただろうなと思いました。“大人しか食べそうもない，あの苦く生臭い，骨のある，好まない人が多いであろうあのいわしを，わたしは食べることができるんだぞ。”と思ったかどうかはわかりませんが，一人が食べたいと言い出したら，ぼくも，わたしもと次々に手を挙げる子どもたち。一種の群集心理です。七輪と炭を使用したアウトドアという解放感も手伝います。そういうことを計算して，今年はさらに高級（値段が1尾50円と高かったということですが）なものを調達してきました。始めて口にしたいわしが少しでもおいしいと思ってもらえるように。

何でも初めが肝心です。初めて末っ子を海釣りに連れて行ったのは彼が8歳の時，海は荒れ，釣には不向きな日でしたが，休みが取れないので仕様がない。案の定，魚は釣れない，寒くて末っ子は下痢し・・・。それ以来私と一緒に釣りに行くことはありません。初めて長男に将棋を教えた時も失敗したことを今思い出しました。あの時も，簡単に負けてやれば，勝つ喜びを味わわせてやれば，今頃は私の好敵手となって年に何回かは大人同士のつきあい相手になってくれていたかもしれません。もったいないことをしたなと思います。

他人の子を看るのが仕事の私でしたが，自分の子となると妙に欲が出て，余裕ある対応，冷静な判断ができない私でした。というより，人の子に対してもそうだったかも知れないなと今ゾッとする私です。では，欲がなければ良い教育ができるかといえば，これがそうとも言えませんのでますます難しい。欲を出したり，我を出したり，様々な煩悩と日々闘いながら生きるのが人間の定めなのかもしれない，と思うことにします。

　園庭を見渡すと，新しく可愛らしい木の椅子3脚が眼に入ります。私の竹馬の友，高田隆一君の作です。これまでも砂場の砂ならしなど，時々園のボランティアとして貢献していただいております。教員としても優秀（わかりやすい授業で多くの子どもたちに好かれる）でしたが，手先も器用で在籍した学校では花壇や物置など色々なものを造り残してきた人です。子どもたちの遊びを待っている間，腰かけとして利用していただきたいと思います。

　園庭の隅の方にある枇杷（ビワ）の木ですが，物置設置のため切り倒すことといたしました。全くもったいないこととは思いますが，他に置く場所がありません。聞くところによれば30年ほど前に種から生えてきたそうで，しばらく前には熟した実を子どもたちが喜んで食べたそうです。できるものならそのままにしておきたいのですが，あと1週間余りの命です。欲しい方がいればお譲りします。

ということで，この記事はどのくらい読まれているのか気になっています。何か言ってください。というのは変でしょうが，「ご意見を」とか「ご感想を」などは何となく堅苦しそうで，敷居も高そうでますます言えなくなるのではないかと・・・ですから，「何か言ってください。」と書いてみて気がつきました。何か言うには，何か言おうと思うだけの内容とか，言いたくなるような何かがなくてはならないということですね。もういいです。最後は自分の力不足に気がつく日々です。